



## 新型コロナウイルスによる知の地殻変動

研究代表者：大庭 良介（筑波大学医学医療系）

### 1) 研究期間

中期型（2020年5月25日～2021年3月31日）

### 2) 応募時の目的・目標・達成イメージなど

COVID-19により、大学におけるグローバル化の意義そのものにパラダイムシフトが生じ、COVID-19以後の高等教育と研究の在り方についての模索が全世界で始まっている（A paradigm shift under COVID-19, 永田恭介, 2020 NCKU International Virtual Forum on COVID-19, 2020年4月21日）。閉鎖的な社会における知識革新の危険性も示唆され、朝永振一郎が主張した科学の中の「罰せられる要素」とも一致する。それは、科学者と市民の参加による科学技術文化の醸成を奨励するものであった。本研究により、科学技術と社会の多面的な要素（政治・経済・文化・哲学・宗教など）が相互に編み込まれて初めて科学技術と社会が共存することを示す。ただし、今回のCOVID-19においては、人間が一方向的に生存をかけた競争に無理やり引き込まれた経緯があり、単純にオンライン活用や、Society5.0の実現など個別課題によってパンデミックが引き起こした社会現象は解決できない。人類社会の存在意義を改めて検証し、結果として大きな知のパラダイムシフトを伴うプロセスに対して、国境を越えた学際的な調査と考察が必要である。

本研究では、COVID-19に対する各国の医学・公衆衛生上の対応、政府の対応、政官学民の連携、そして市民の社会行動といったヒトやモノが組み立てられ起動するネットワークが、COVID-19という世界共通かつ各国に異なる経験をもたらした動向について、その変化と課題を浮き彫りにし、調査・分析結果を基に「COVID-19以後の知の創生プロセス」を明示する。さらに本取組みを基盤として国境を越えた議論を継続し、新しい学問の創出につなげる。

具体的には、COVID-19に起因する国際社会と知の地殻変動を、①海外高等教育機関とのオンライン国際会議を通じた調査、②WEBやマスメディアの言説分析、③医学・生命科学分野文献データベース（PubMed Medline）全文情報解析によるコロナウイルス研究動向の変動解析、④海外を訪問した実地調査を実施している。

### 3) 本プログラムで実施した研究の内容と成果

上記①に関し、本学が連携する Campus-in-Campus 協定校 10校を中心とした会議（5回）、国立成功大学（台湾）との TGSW2021 におけるセッションを中心として調査を実施し、既存の国際的枠組みにおけるオンライン連携はもちろんのこと、新たな研究教育連携の枠組みがオンラインの活用によって加速しており、現在、国際的な高等教育連携のフレームに変化が生じてきたことを目の当たりにしてきた。また、各国・各機関において温度差があり、すでにコロナ後を見据えた動きを活性化している機関もあれば、コロナ後のビジョンはあるものの、国や機関として停滞しているところもあった。



上記②に関しては、2020 年上半期の世界各国の WEB 上およびマスメディアの言説を分析し、COVID-19 を含むパンデミックと世界覇権の関係を史的に明らかにしたうえで、権威に支えられた既存の知の限界が「未知」の要素により超越され、知が学際的に組み立て直され再起動し始めるプロセスを記述して、パンデミックと権力そして知識の関係を初歩的ながら解明することを試みた。本成果については本プロジェクト共同研究者である木島譲次国際局特命教授により Inter Faculty 誌に掲載済である。

上記③に関し、2020 年 8 月までに PubMed 上で検索可能な全文約 2100 万報を分析した。SARS・MERS 発生時において新規参入したのは RNA ウイルス疾患研究者が主であったのに対し、COVID-19 においては、より関連の低い分野からの研究者の参入が激増した。一方、SARS・MERS を含む従来コロナウイルス研究は、医学・生命科学分野全体と比較したとき、国際共同研究にその強みがあったものの、COVID-19 における新規研究では国際共同研究の割合が、医学・生命科学分野全体と比べても低くなっており、分野横断的であるが地域集約的な知見の積み重ねへと活動が変化していることが分かった（医学・生命科学分野全体では、COVID-19 の発生以降 2020 年 8 月までに国際共同研究生産性に変更はないことを付記しておきたい。）。本成果については、現在国際誌に投稿中である。

上記④に関し、本プロジェクト共同研究者である医学医療系の福重瑞穂助教が台湾・国立成功大学に滞在し（2021 年 3 月～5 月）、現地での調査を実施している。

#### 4) 研究業績・研究広報

- Kijima J, “Another Time of Renewal – pandemics, power and knowledge”. Inter Faculty, 10 (2020): 147–163, DOI: 10.15068/00162399, Published: January 7, 2021.
- 木島譲次, 筑波大学 > NEWS 2020.10.8 令和 2 年度 SD セミナー「COVID-19 以後の国際政治と高等教育—変わる世界、変わる大学—」を開催  
<https://www.tsukuba.ac.jp/news/20201008140800.html>
- 木島譲次, 筑波大学 > 「知」活用プログラム NEWS 2020.10.8 令和 2 年度 SD セミナー「COVID-19 以後の国際政治と高等教育—変わる世界、変わる大学—」を開催  
[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19\\_topics/861/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19_topics/861/)

#### 5) 最新の成果・情報

筑波大学「知」活用プログラムウェブサイト > 大庭 良介

[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19/ohniwa/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/ohniwa/)

#### インタビュー記事

[https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight\\_covid19\\_interview/ohniwa/](https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19_interview/ohniwa/)